

## 浜松南病院 防災新聞

### トリアージ訓練を行いました

1月29日、当院では防災訓練の一環としてトリアージを行う訓練を行いました。寒空の中、屋外で行う訓練でしたが、院長はじめ医師4名を含む40名程での訓練となりました。

皆さんは「トリアージ」という言葉をご存知でしょうか？

災害が起こった際、傷病者は通常より多数発生し、病院も被災しているため通常の診療を行えない状況が予想されます。多数の負傷者に対して限られた医療資源（施設、資材、スタッフ）で、可能な限り多くの命を救命するため、緊急度と重症度に応じて区分けすることを「トリアージ」といいます。



トリアージを行っている様子



訓練前の最終確認



患者役でスタンバイする職員

今回行われた訓練では「遠州灘沖を震源とする M8.7、浜松市では最大震度 7 の地震が発生し、多数の負傷者が発生した」という想定で行われました。参加した 40 名程の職員は職種を問わず、皆で協力して病院前に集まった患者役の職員をひとりずつトリアージし、迅速な治療が必要となる患者を病院内に搬送していきました。

参加した職員からは、「実際に災害が起こった場合、搬送するための道具や人員が不足してしまう」という問題点を指摘する声も上がりましたが、「搬送用の道具が不足するため、シーツなどを使用した担送方法も学びたい」という前向きな意見や、「（知識として知っていても）実際に行ってみると、体も頭もぱっと動かないことが良く分かり有益だった」という訓練の大切さを象徴する意見があがりました。



トリアージを終え、搬送班を呼ぶ院長



トリアージされた患者を運ぶ搬送班

近年、日本の各地で大きな自然災害が起こっています。ここ浜松でもいつ大地震などの災害が起こるか分かりません。災害時に出来ることは限られてしまいますが、できる限りの医療を提供できるよう地域医療の担い手として今後も訓練を続けていきたいと思ひます。